

2015年9月期 上半期決算説明

株式会社ユーグレナ
2015年5月

【免責事項】

本資料に記載されている予測、見通し、戦略およびその他歴史的事実ではないものは、当グループが資料作成時点で入手可能な情報を基としており、その情報の正確性を保証するものではありません。
これらは経済環境、経営環境の変動などにより、予想と大きく異なる可能性があります。



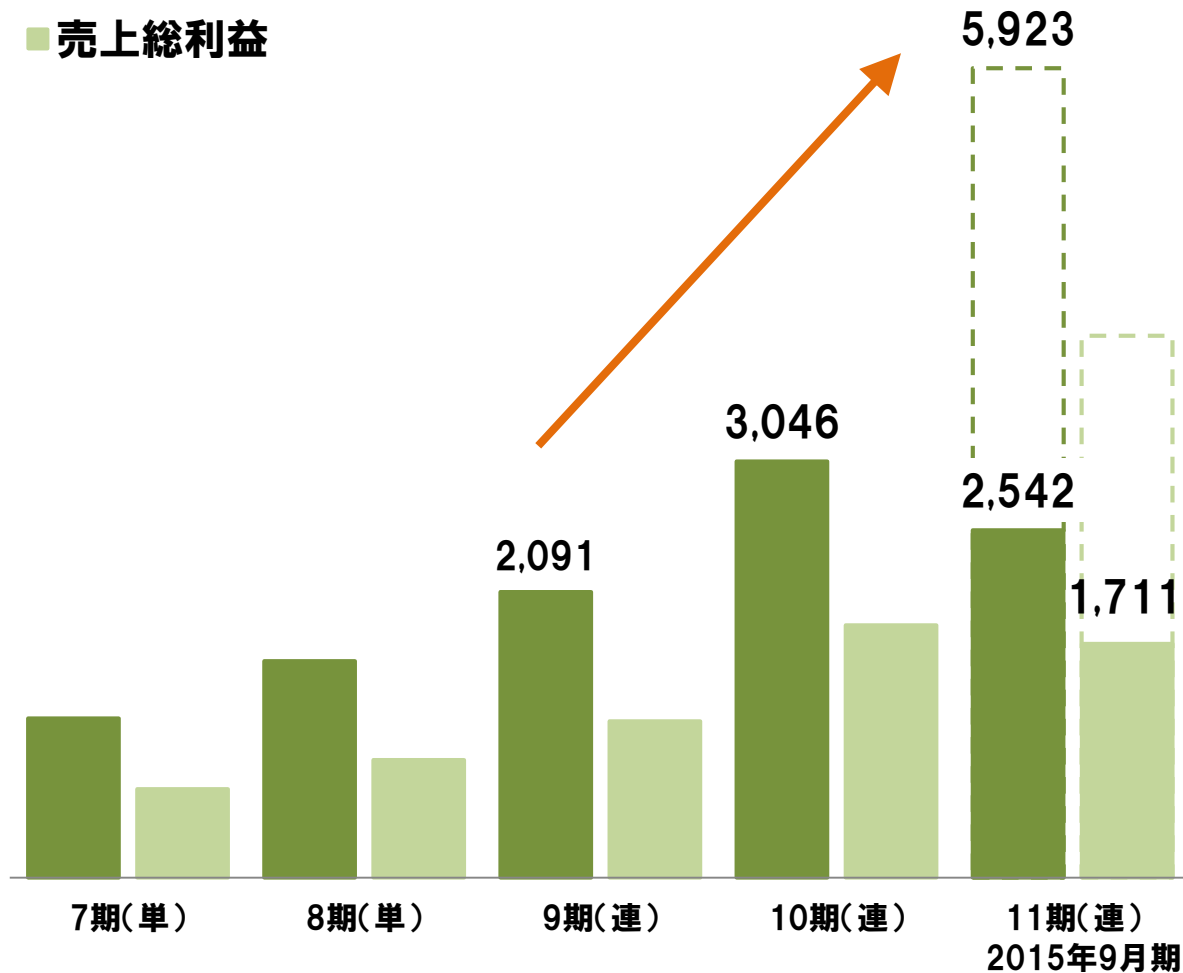
目次

- I. 2015年9月期上半期決算概要
- II. 足元の収益成長～ヘルスケア事業
- III. 将来の成長に向けた布石～研究開発進捗
- IV. 企業理念の実現～バングラデシュにおける取組み
- V. 【ご参考】株式会社ユーグレナの概要

2015年9月期 上半期決算概要

業績推移—売上高、売上総利益

- 売上高（百万円）
- 売上総利益



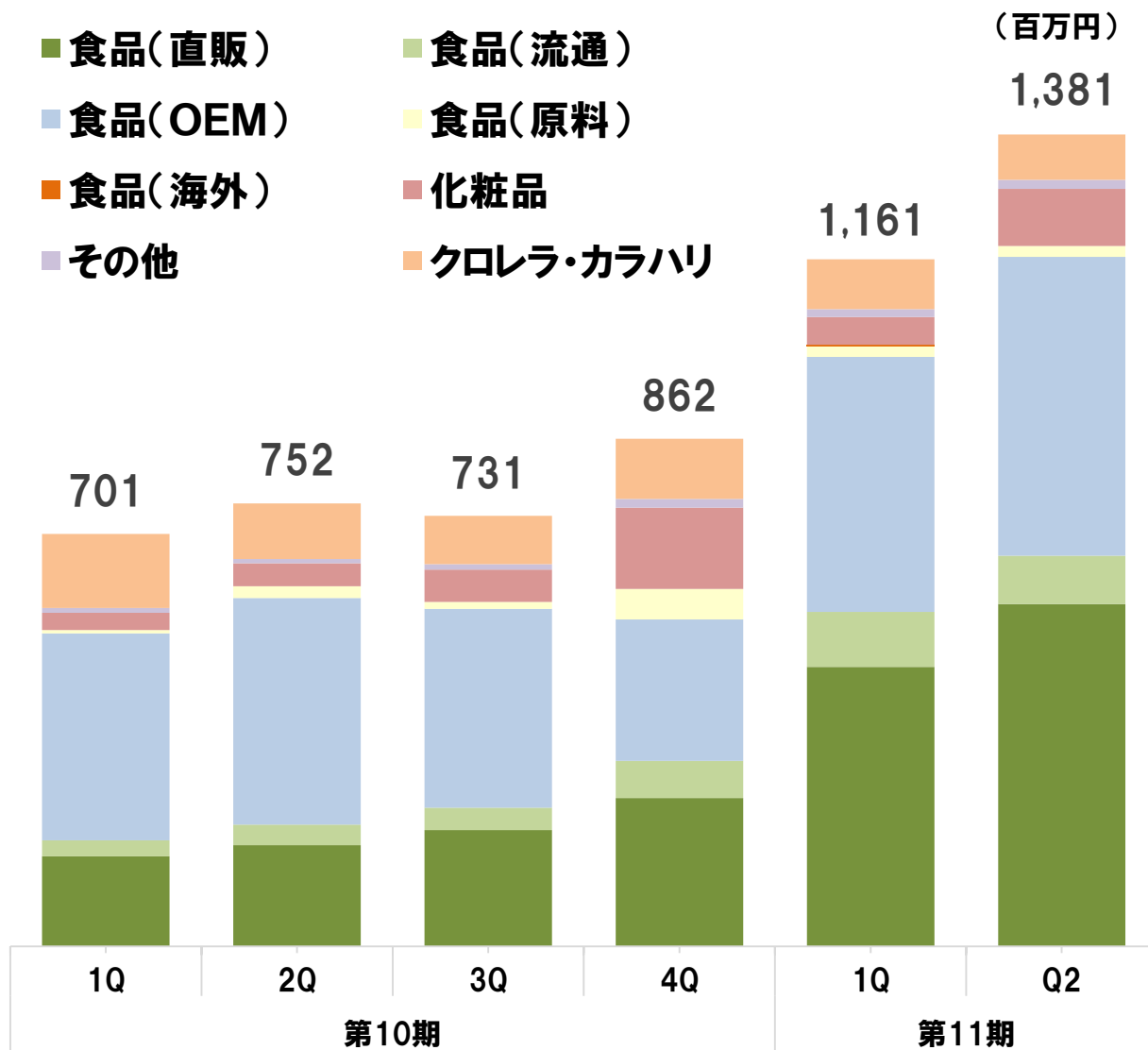
上期のみで
前年度売上高の
約8割を達成



注: 2013年3月27日付で八重山殖産(株)を完全子会社化した事を受け、当社は2013年9月期Q2より四半期連結財務諸表を作成しております。当社グループの連結決算へ八重山殖産(株)の業績が反映されているのは9期(2013年9月期)Q3からとなります。

四半期推移一売上構成

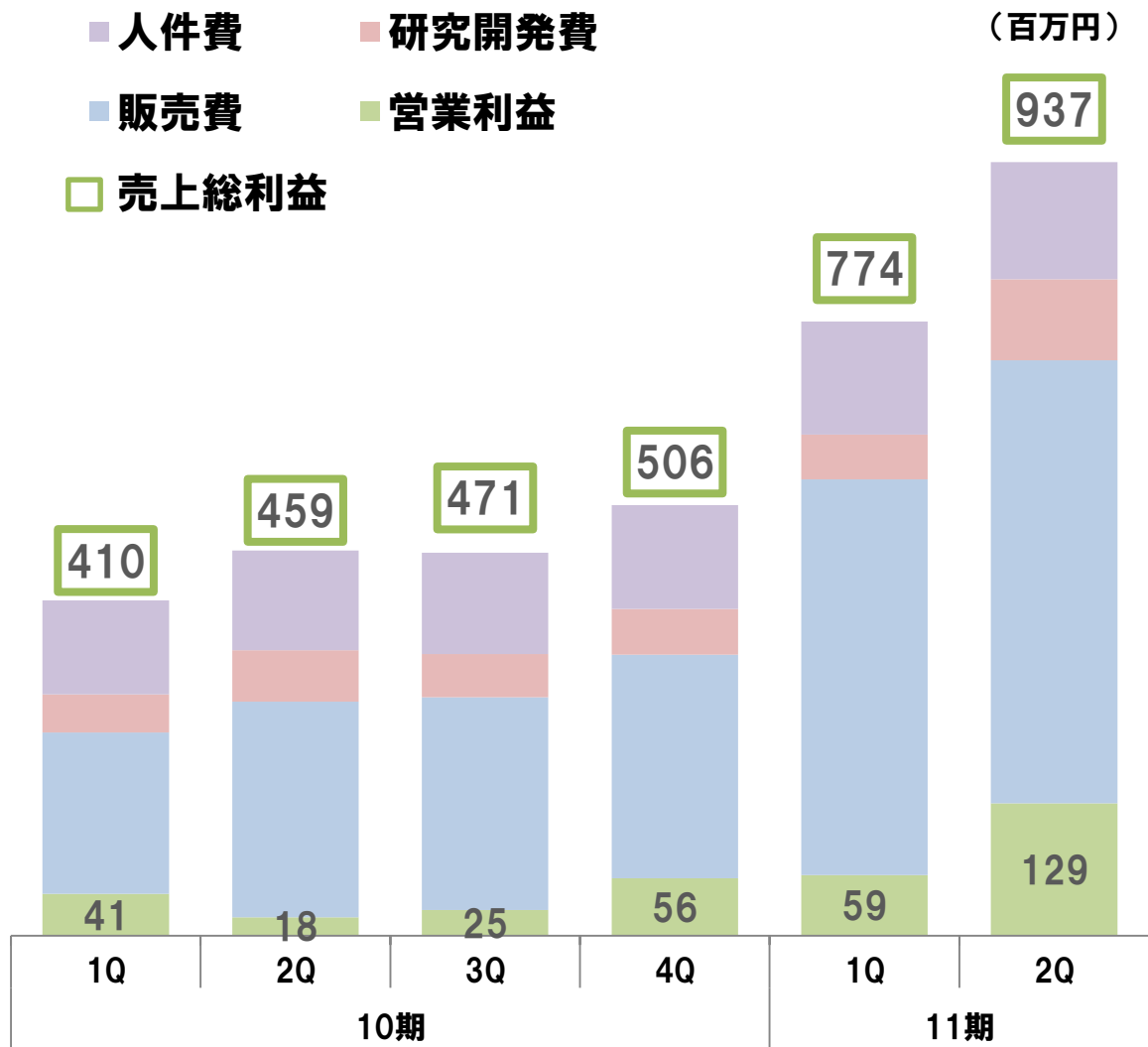
- 食品(直販)
- 食品(流通)
- 食品(OEM)
- 食品(原料)
- 食品(海外)
- 化粧品
- その他
- クロレラ・カラハリ



**直販とOEMの
堅調な推移により、
Q2は前期比で
大幅な増収を達成**



四半期推移一売上総利益、販管費、営業利益



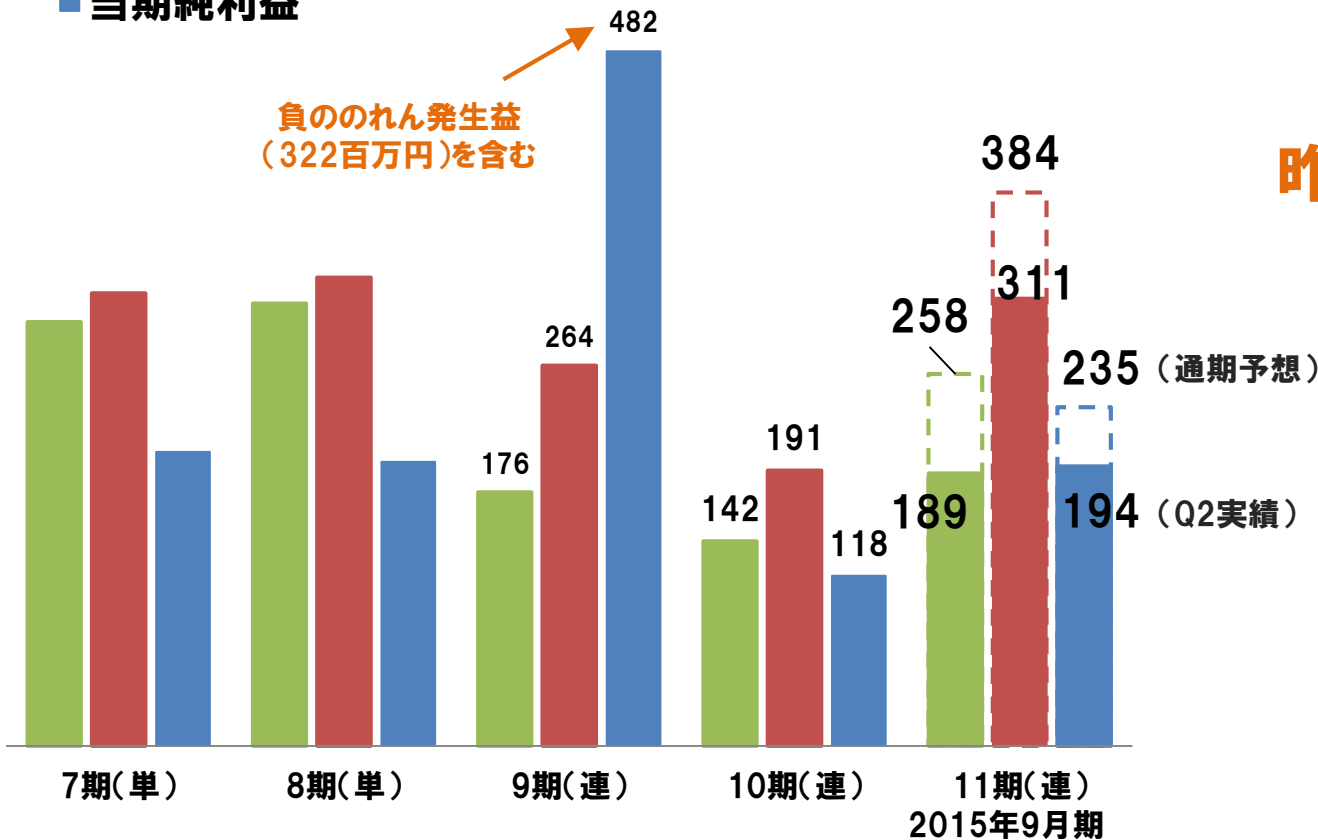
**売上総利益は
着実に成長**

**広告宣伝費・研究開発費
に積極的に投資するも、
営業利益は前期比で増加**

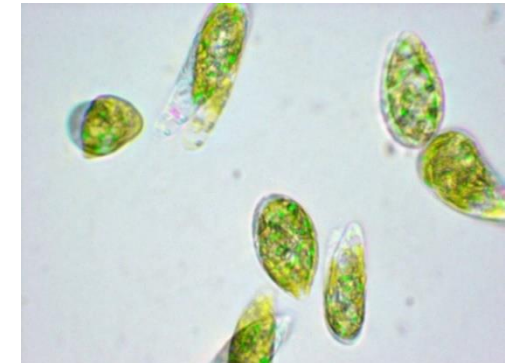


業績推移—営業利益、経常利益、当期利益

- 営業利益（百万円）
- 経常利益
- 当期純利益



売上増加や助成金
収入増加等により、
全ての利益項目が
昨年度通期実績を突破



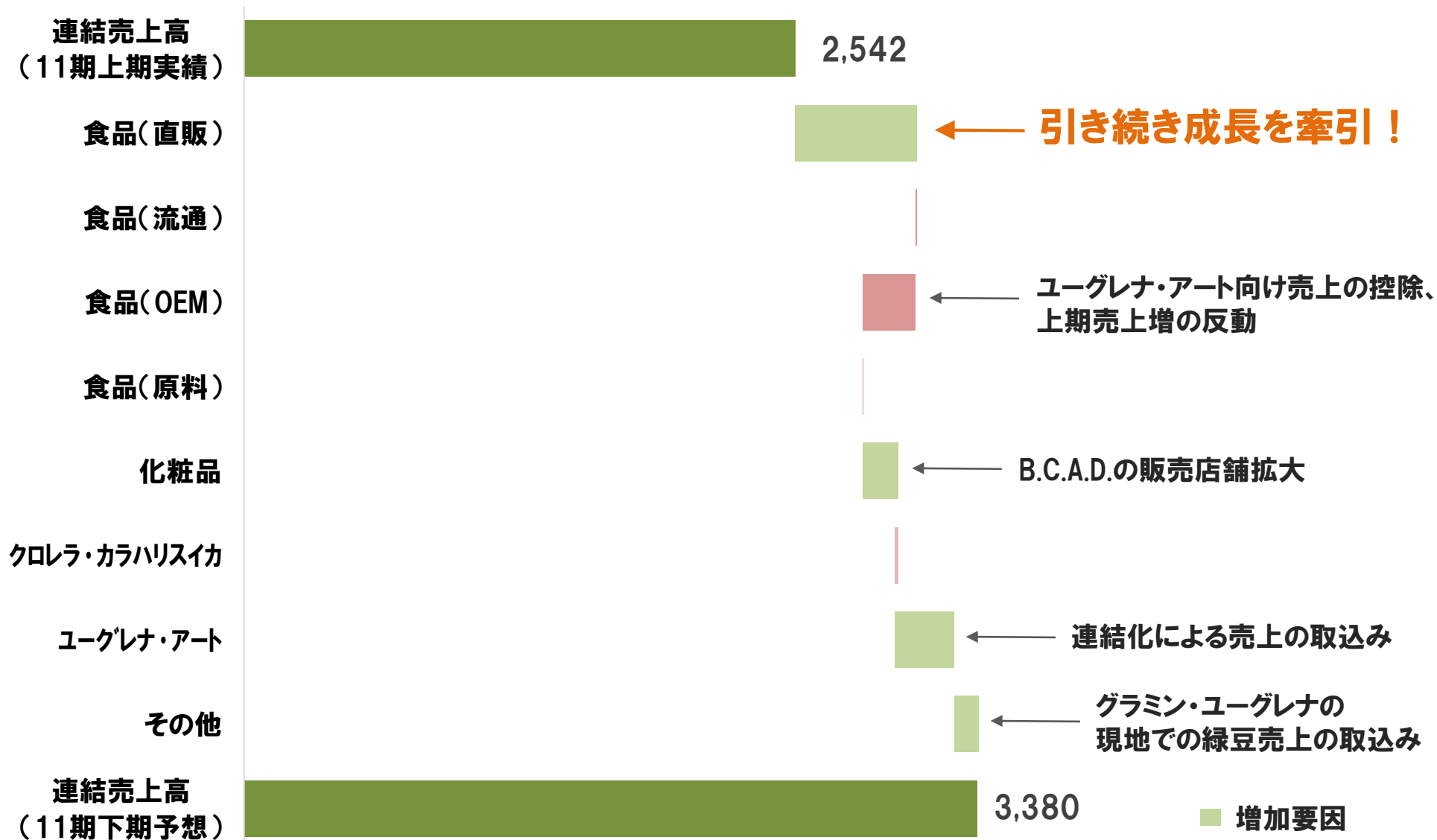
注: 2013年3月27日付で八重山殖産(株)を完全子会社化した事を受け、当社は2013年9月期Q2より四半期連結財務諸表を作成しております。当社グループの連結決算へ八重山殖産(株)の業績が反映されているのは2013年9月期Q3からとなります。また2013年9月期の連結当期純利益には、八重山殖産(株)の子会社化に伴い計上した負ののれん発生益322,212千円が含まれております。

2015年9月期(第11期)の連結業績予想

前回予想から増収増益に上方修正

	2014年9月期 実績	2015年9月期 業績予想 (前回)	2015年9月期 業績予想 (今回)	対前回予想 増減率
売上高	3,046	4,722	5,923	25.4%
営業利益	142	77	258	231.6%
経常利益	191	256	384	49.9%
当期純利益	118	175	235	33.7%

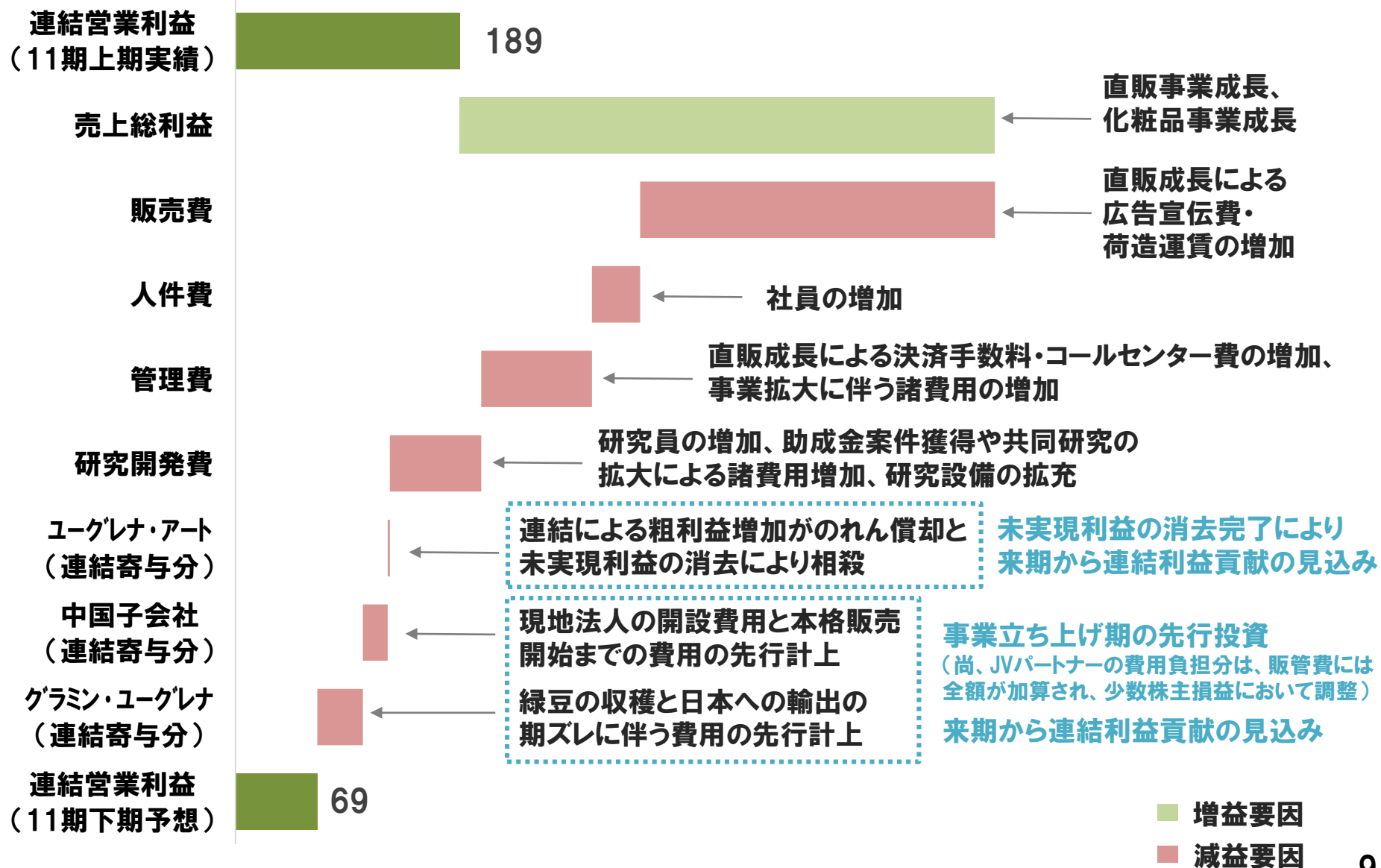
第11期上半期実績と下半期予想の比較一売上高



注: 単位は百万円。当社からユーグレナ・アート社に対する売上分は食品(OEM)から控除

■ 増加要因
■ 減少要因

第11期上半期実績と下半期予想の比較—営業利益

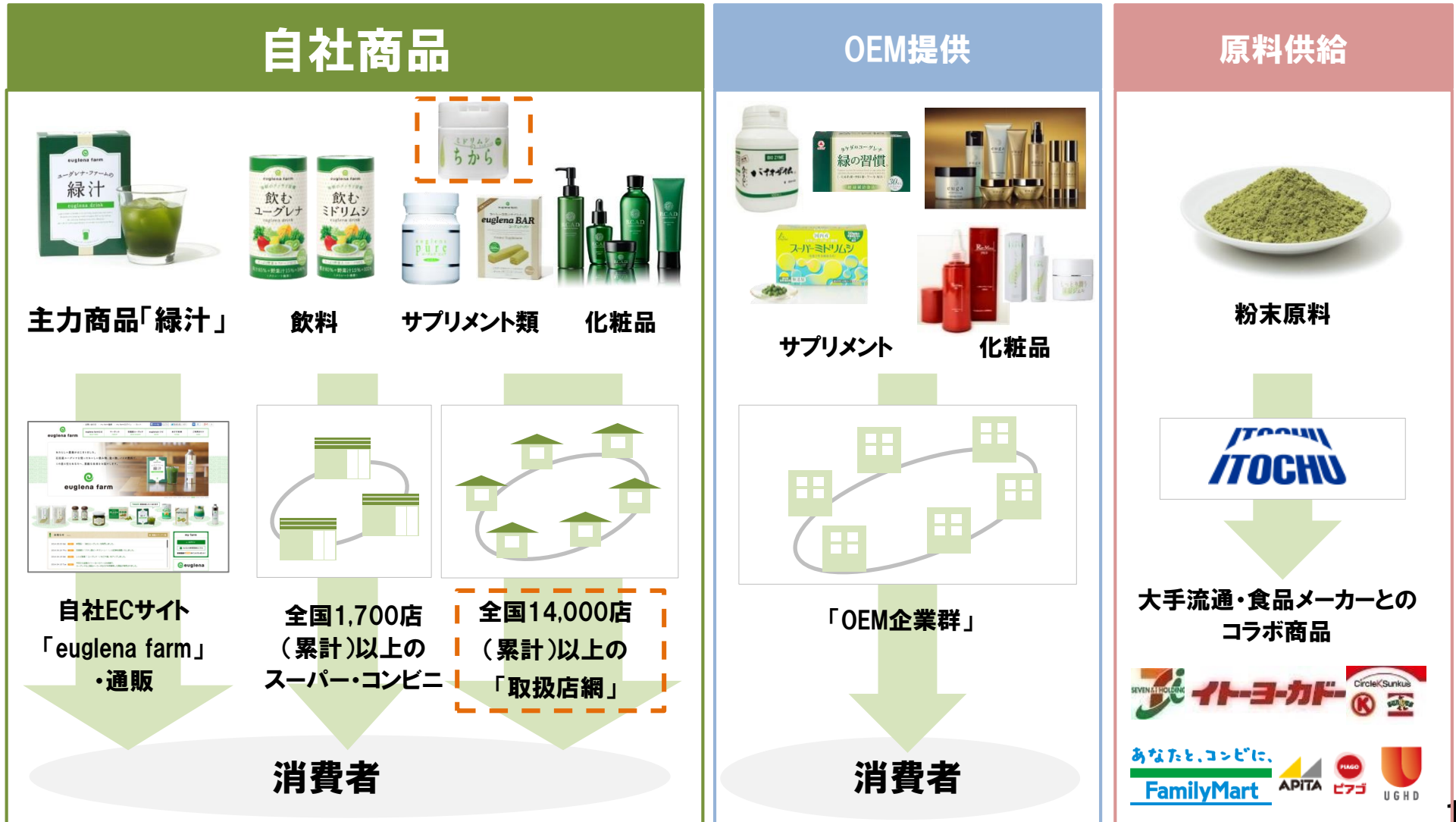


注: 単位は百万円。売上総利益と販管費には、第11期下半期に連結予定の子会社3社は含まず

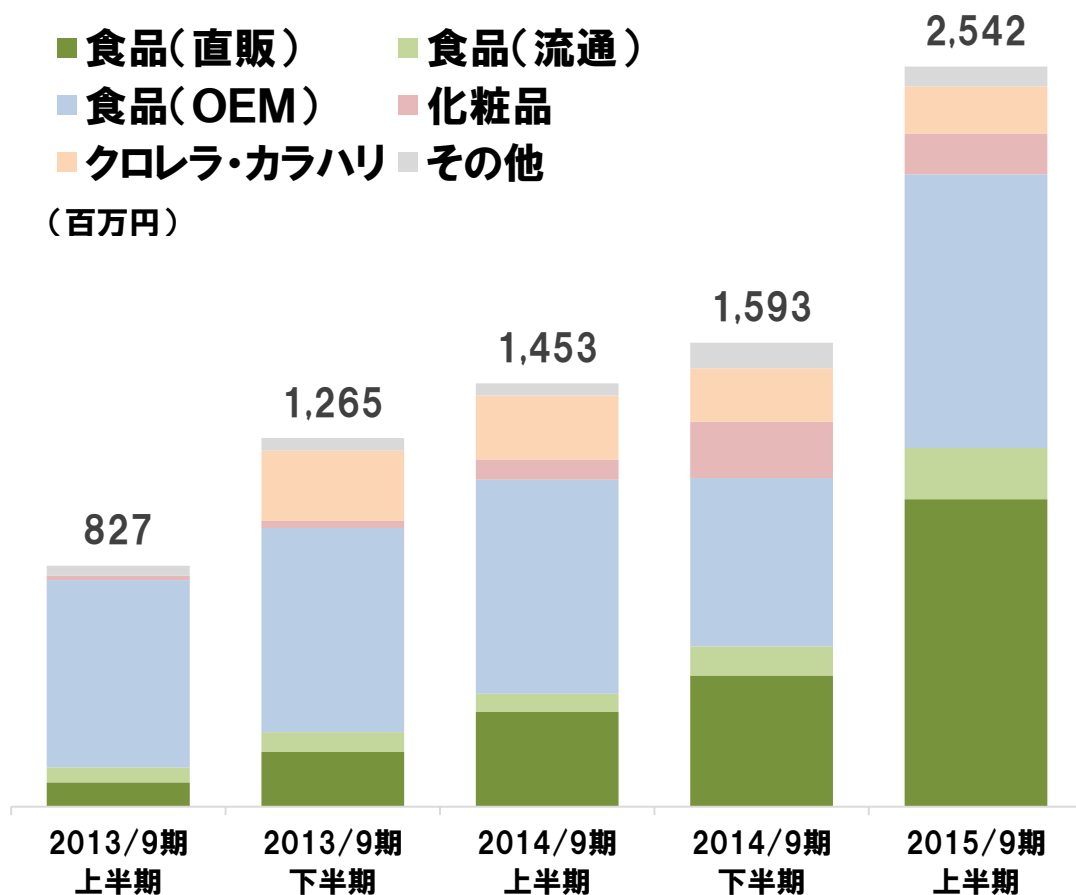
足元の収益成長 ～ヘルスケア事業

ヘルスケア事業のビジネスモデル

OEM取引先の取り込みにより自社製品の販売網が大幅に拡大



ヘルスケア事業の売上構造の推移



食品(直販)の売上は
前年同期比3倍

構成比も40%を突破し、
食品(OEM)売上を逆転
収益の主力に成長

粗利率も大幅に改善

粗利率

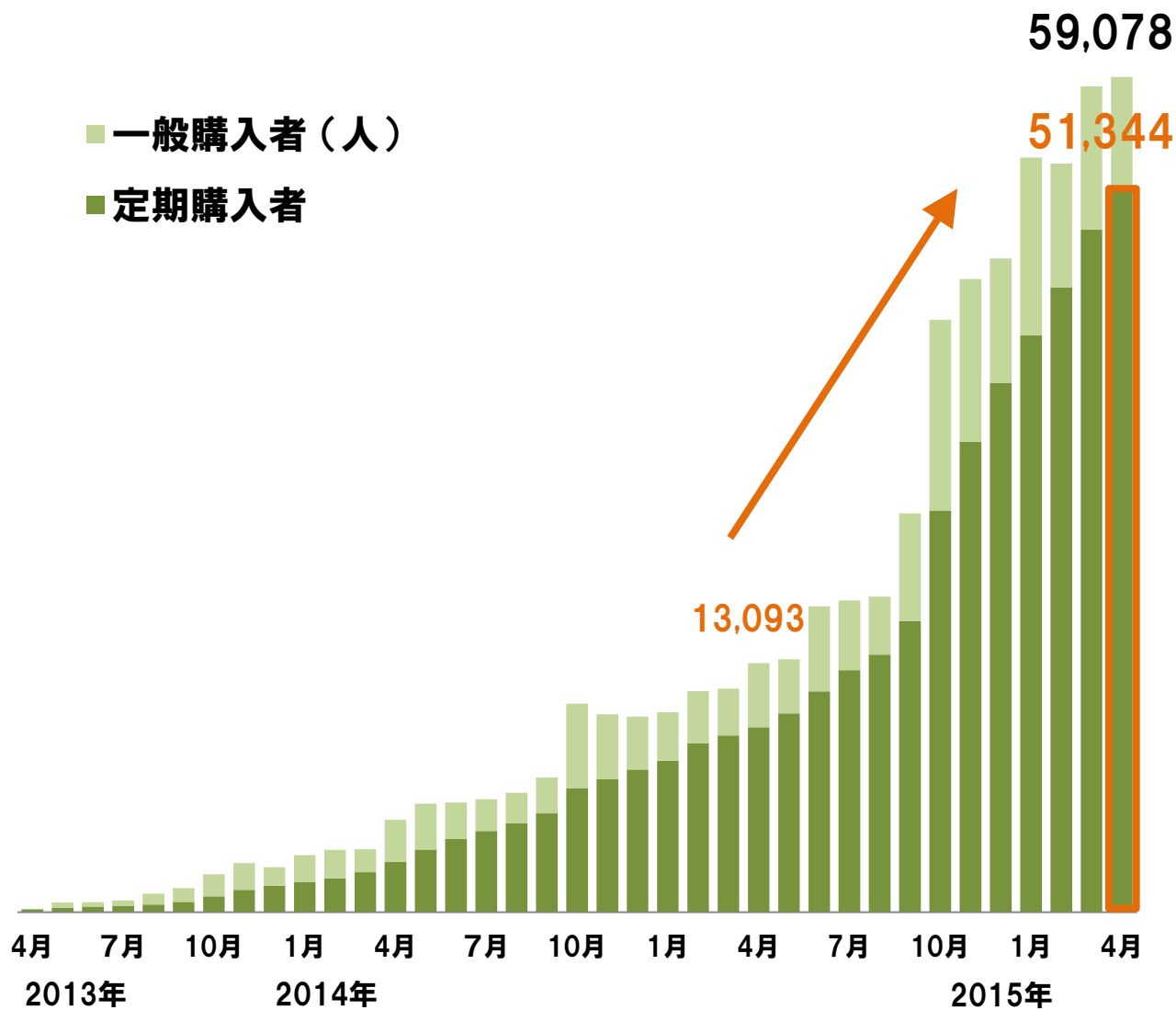
60%

61%

67%

注: 2013年3月27日付で八重山殖産(株)を完全子会社化した事を受け、当社は2013年9月期Q2より四半期連結財務諸表を作成しております。当社グループの連結決算へ八重山殖産(株)の業績が反映されているのは2013年9月期Q3からとなります。

食品(直販)一直販顧客数推移(2015年4月)



定期購入者数は
前期比4倍の
5万人を突破!

通期目標を5か月
前倒しで達成!



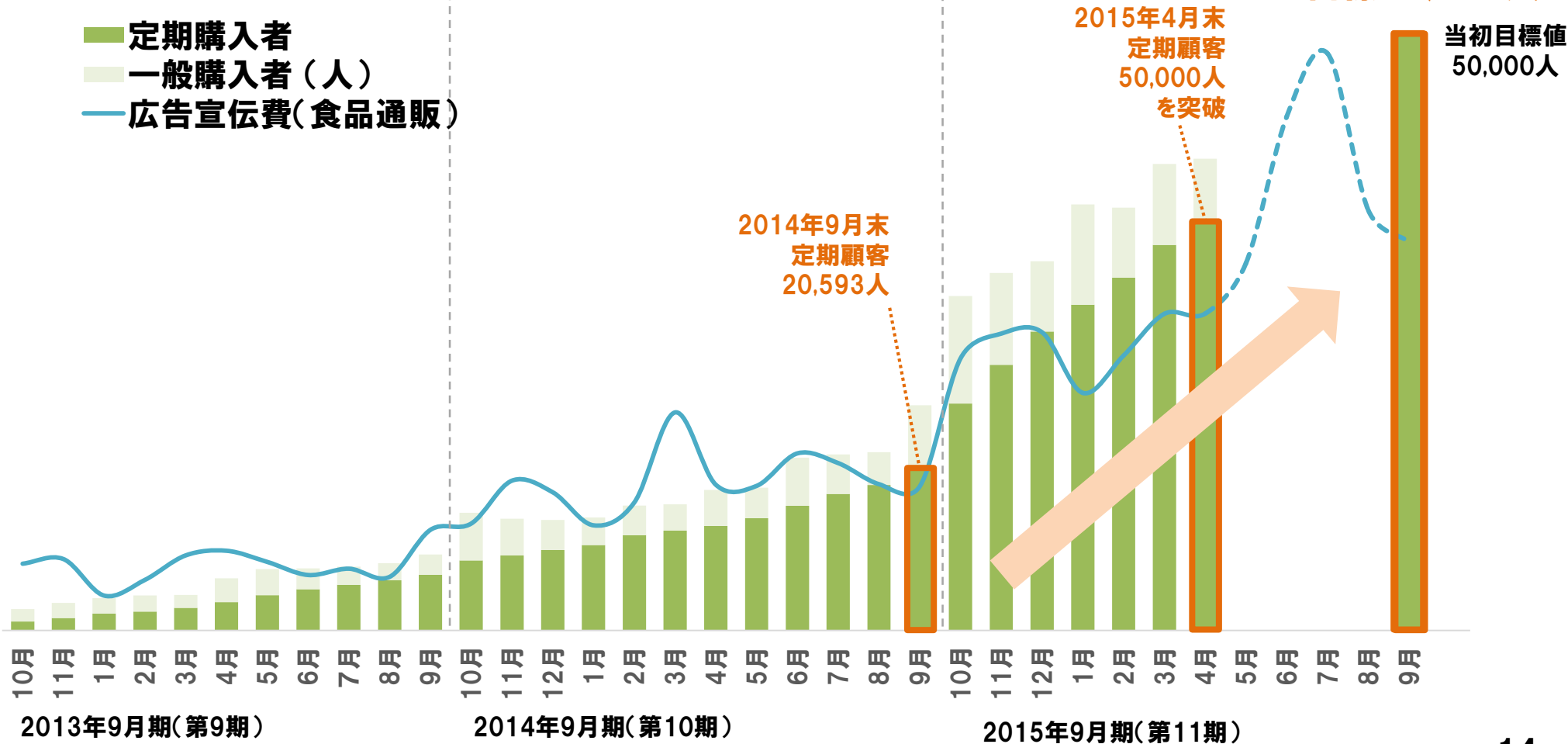
注:購入者数は「緑汁」と「ユーグレナ・プラス」が対象で、化粧品「B.C.A.D.」は含みません。

食品(直販)ー広告宣伝への積極投資による直販事業の成長加速化

今期末の定期顧客数目標を5万人から7.5万人に引き上げ。

オフラインとオンラインを組み合わせた広告宣伝を強化

2015年9月末
目標75,000人



注:購入者数は「緑汁」と「ユーグレナ plus」が対象で、化粧品「B.C.A.D.」は含んでおりません

食品(自社流通)―自社ブランド飲料「飲むユーグレナ／ミドリムシ」

2014年5月にローンチした自社ブランド飲料商品「飲むユーグレナ／ミドリムシ」の累計販売店舗数は1,780店を突破

商品名: 「飲むユーグレナ」(東日本)
「飲むミドリムシ」(西日本)
(内容は同じ)

名称: 果実・野菜ミックスジュース

内容量: 195g

価格: 259円(税込)

販売箇所: 成城石井、ナチュラルローソン、
北野エース、阪急オアシス、とりせん、
いかりスーパー、ライフ、ダイエー、
クイーンズ伊勢丹、明治屋ストアー、
サミット、オークワ
他、各地のスーパーマーケット等
(累計1,780店舗)
および自社ECサイト「euglena farm」



東日本



西日本

食品(自社グループ流通)ーM&A活用によるOEM供給先の垂直統合

株式交換の対象会社概要

名称:	(株)ユーグレナ・アート(旧(株)ユーキ) (株)アート・コーポレーション(※1)		
所在地:	福岡県福岡市		
事業内容:	ユーグレナ機能性食品・化粧品等の卸売事業 ブランド名は「ミドリムシのちから」		
販売店網:	全国13,000店舗以上(累計)		
業績概要(※2): (2014年10月期)	売上高	891	百万円
	経常利益	109	百万円
	当期純利益	67	百万円

※1: 7月にユーグレナ・アートを存続会社として吸収合併を実施し、アート・コーポレーションは消滅する予定です

※2: 便宜的にアート・コーポレーション単体の実績値(5/1付で分割されたエステ事業の値を含む)を掲載

ユーグレナ・アート社が5月より当社グループに参画

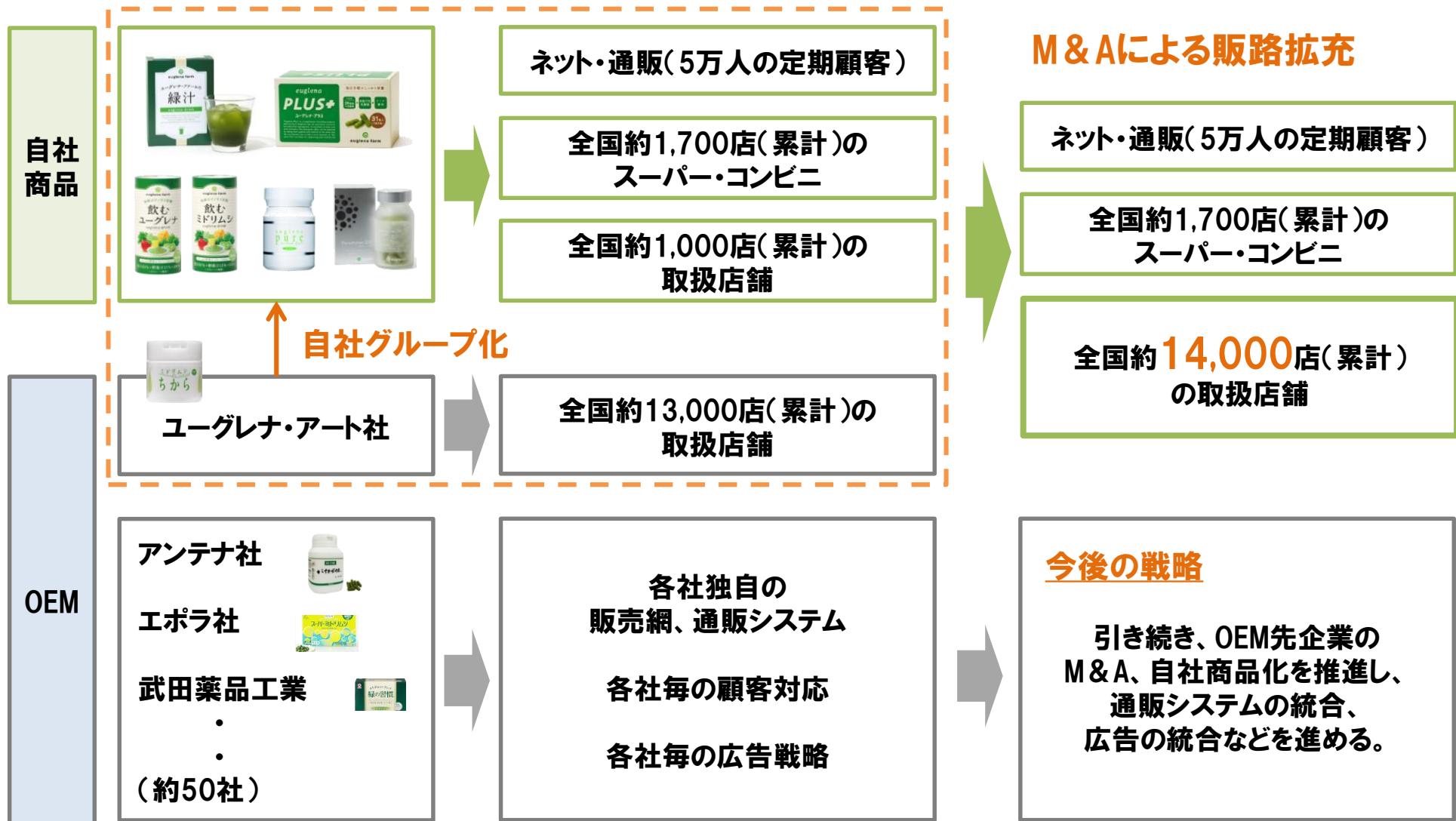
シナジー効果による売上拡大や物流・システムの統合によるコスト削減を目指す

対象会社との取引概要



グループ化により商流を垂直統合

ヘルスケア事業—国内ユーグレナ食品事業のモデル変換



食品(海外)ー中国における子会社設立



70%

30%

上海悠緑那生物科技
有限公司
(上海ユーグレナ)



上海のオフィス

2015年4月に
営業許可証を取得
6月より本格稼働開始

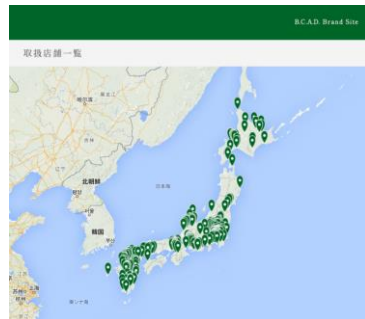
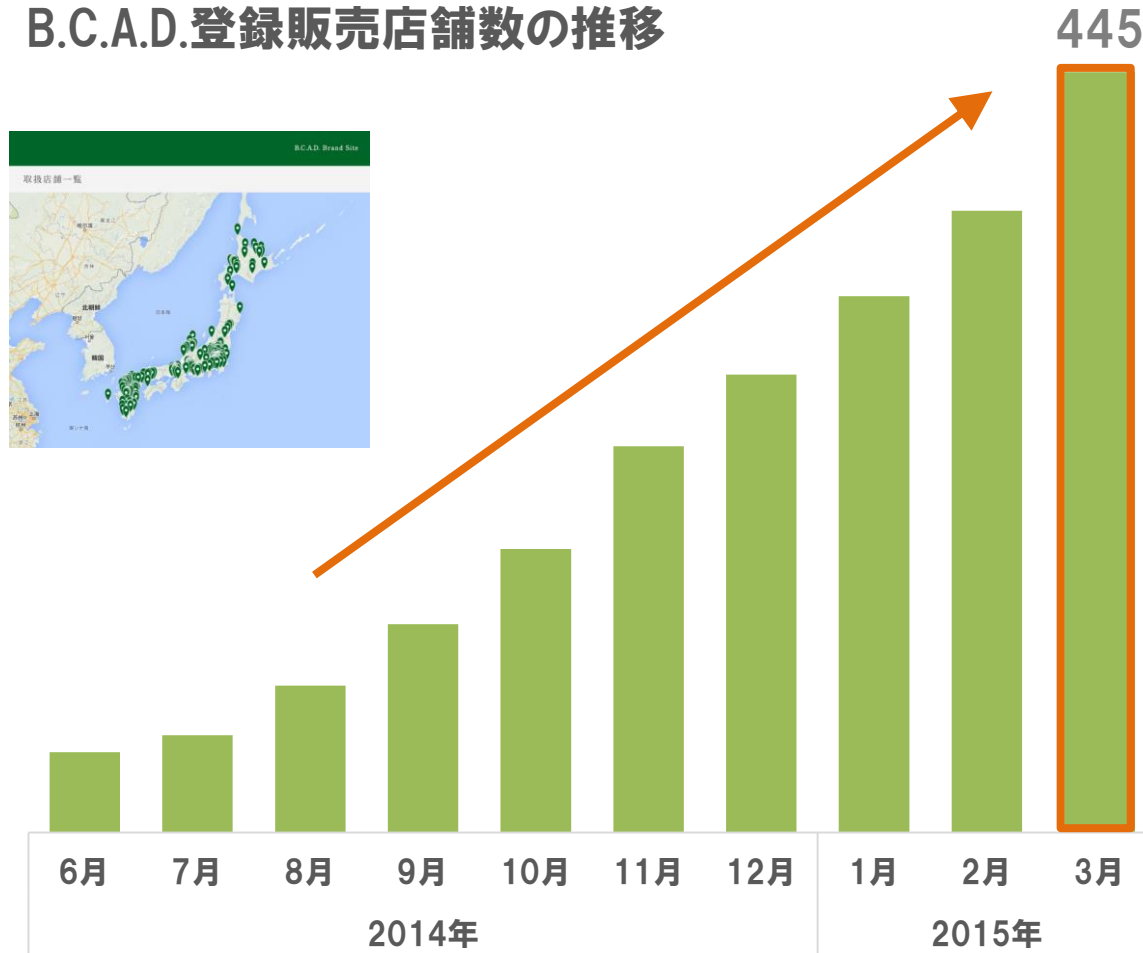
会社概要

所在地:	中華人民共和国 上海市
代表者	福本拓元(当社取締役、マーケティング部長)
事業内容	微細藻類ユーグレナ入り食品の販売
資本金	600 万元
決算期	12 月期
出資比率	当社 70% 統園國際有限公司 30%

化粧品—自社ブランド「B.C.A.D.」の売上拡大

自社ブランド「B.C.A.D.」の取扱店は445店舗を突破。2015年4月1日、初の百貨店店舗として『ユーグレナショップ』を日本橋三越本店に出店

B.C.A.D.登録販売店舗数の推移



日本橋三越のブース(イメージ図)

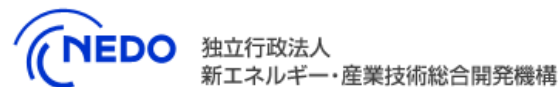
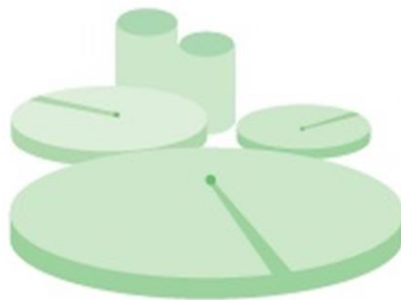
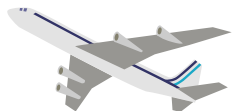
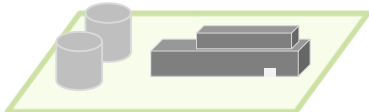
将来の成長に向けた布石 ～研究開発進捗

研究開発の体制

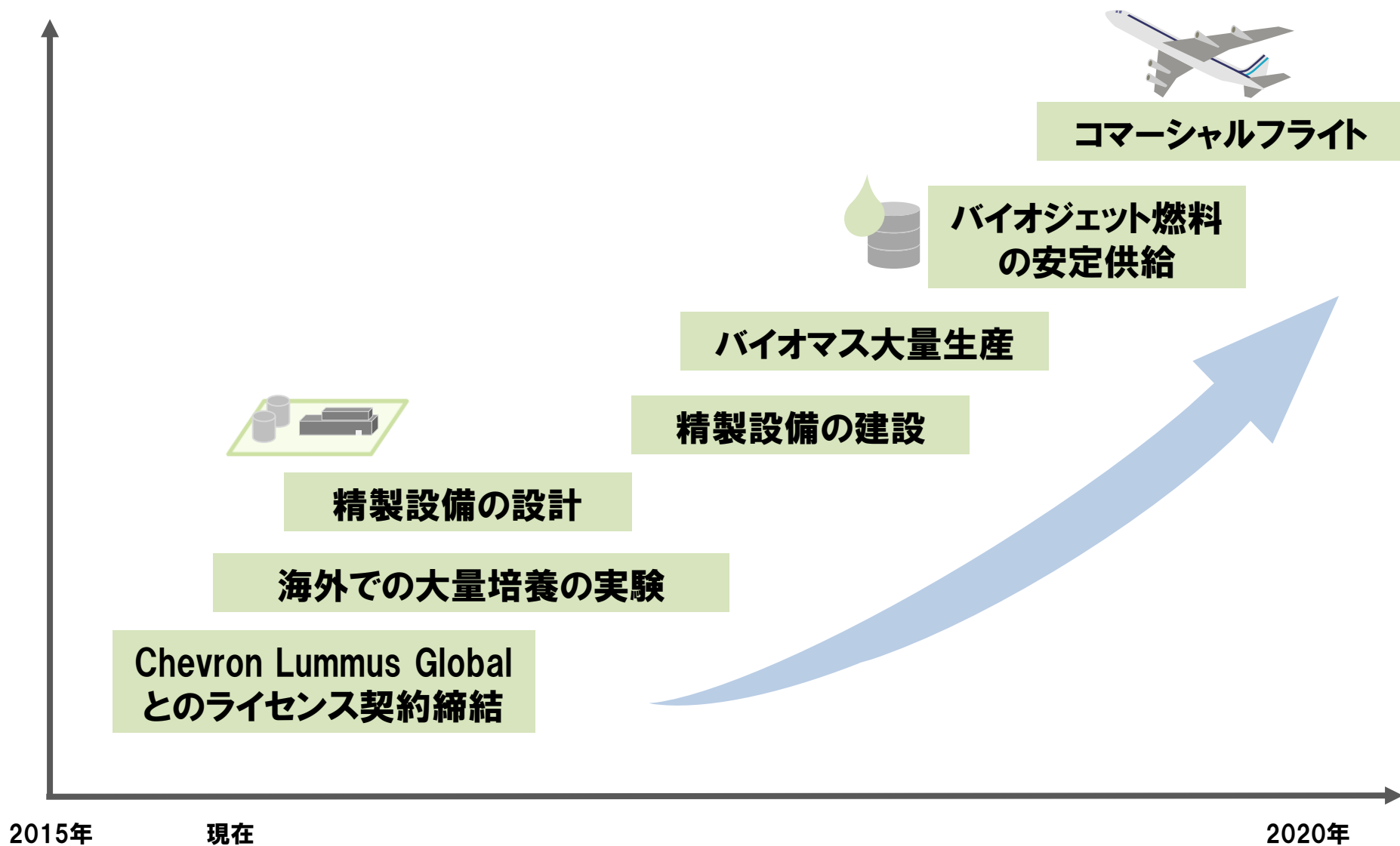
バイオ燃料の実用化及び培養技術の向上を目指し、
政府機関・民間企業と共同研究体制を構築

バイオ燃料の実用化

培養技術の向上



バイオ燃料実用化に向けた取り組み

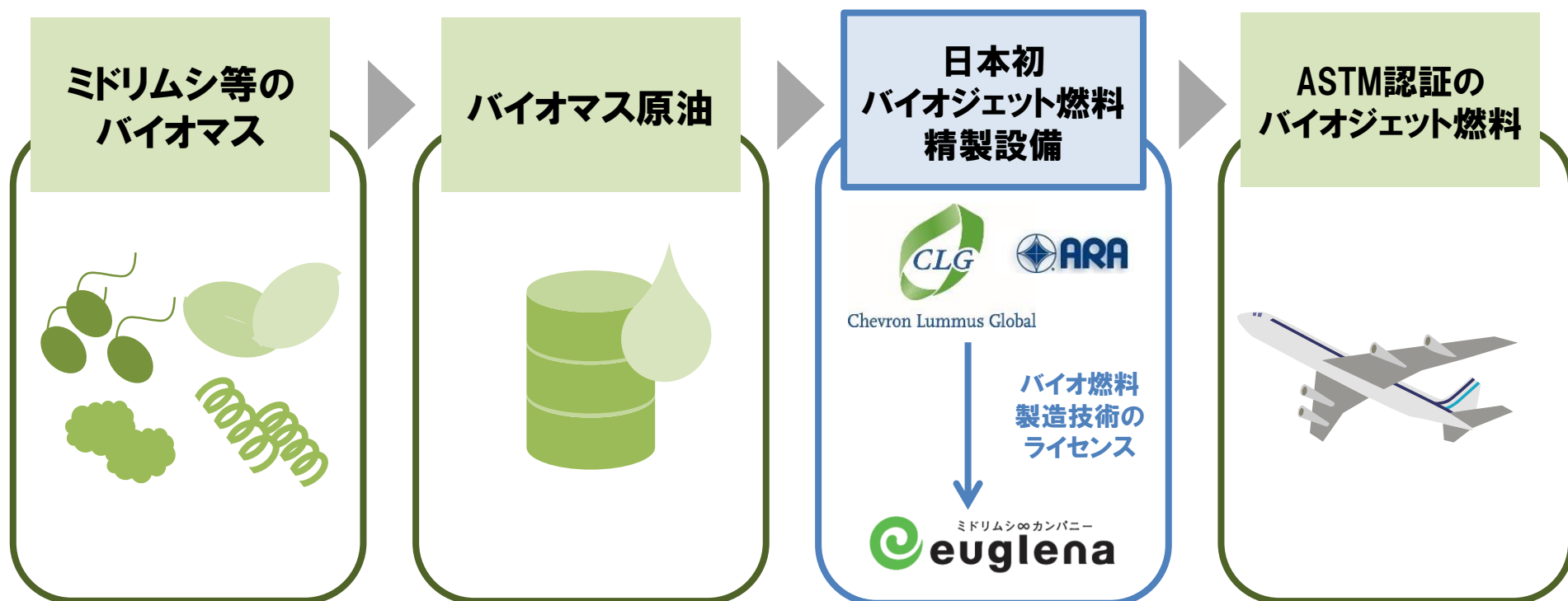


注: 上記グラフはイメージであり、定量的な計画を示すものではありません

Chevron Lummus Global との基本合意契約の締結

2015年2月20日、Chevron Lummus Global社と基本合意契約を締結

現在、ライセンス契約締結に向けた準備中



注：Chevron Lummus Global LLC は、米国の大手石油会社であるシェブロン社(Chevron U.S.A. Inc.)と米国のエンジニアリング・建設大手の CB&I 社(CB&I Technology Ventures, Inc.)が設立した合弁会社で、石油精製等に関する種々プロセス技術を保有する米国ライセンサー・エンジニアリング企業です。

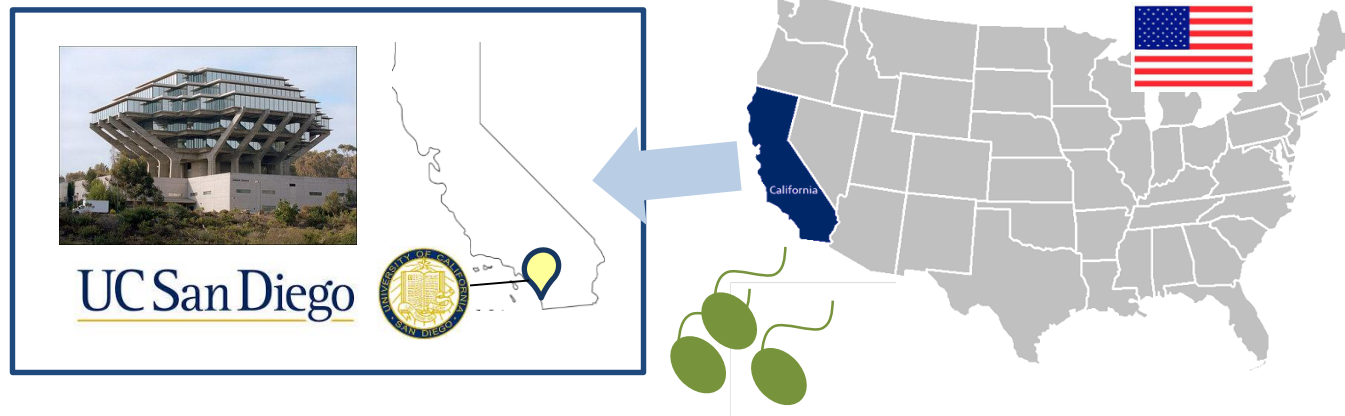
注：ARA 社(Applied Research Associates)は、米軍の要請により開発に成功した、高温水によるバイオ原油の精製技術および特許を保有する米国研究開発・エンジニアリング企業です。

米国での培養研究の開始

米国カリフォルニア大学サンディエゴ校(UC San Diego)にて、
バイオジェット向けユーグレナの培養研究を開始



屋外培養実験



実施概要

目的と内容:

- ・遺伝子組み換えユーグレナの屋外大量培養に向けた研究
- ・天候など好条件化でのユーグレナの屋外培養による新たな培養データの獲得
や培養候補地の検証

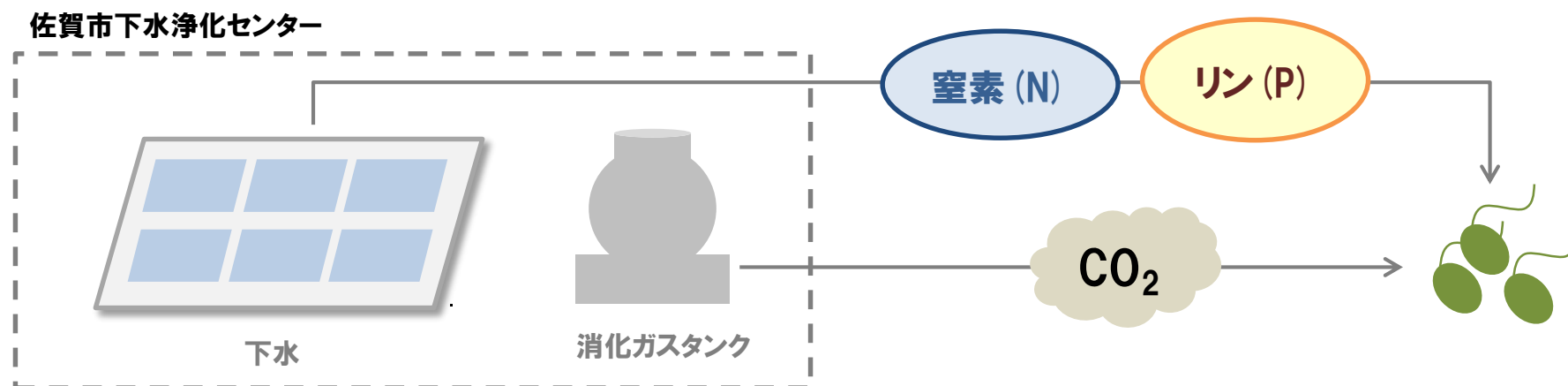
期 間: 2015年4月8日から 2015年9月末(予定)

体 制: 当社より研究員を2名派遣し、UC San Diegoの研究室と連携

国土交通省の「下水道革新的技術実証事業」での選定

下水処理の過程で発生するCO₂の分離・回収と微細藻類培養への利用技術実証事業が国土交通省の「B-DASH※プロジェクト」に採択

※ 下水道革新的技術実証事業の通称



ミドリムシのカンパニー



事業概要

事業名:	バイオガス中のCO ₂ 分離・回収と微細藻類培養への利用技術実証
実施場所:	佐賀市下水浄化センター
実施期間:	契約締結日の翌日 ~ 2016年3月31日まで(予定)
実施内容:	消化ガス中のCO ₂ を効率よく利用したユーグレナなどの微細藻類の培養 下水中の窒素やリンの低減効果についての実証

『リアルテック育成プログラム』を実施するVCファンドを設立

「ヒト、モノ、資金」の総合的な支援により、研究開発型ベンチャー企業の育成を行う

リアルテック育成ファンド

GP

euglena investment

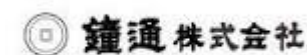


SMBC日興証券



Leave a Nest

LPs



ものづくり分野



バイオ・ヘルスケア
分野



アグリ・エネルギー
分野



注：リアルテックとは、web上のみで完結しない、物理的な技術開発を伴う技術(ロボティクス、バイオ、アグリ、エネルギー、IoT等の物理的な技術)を指します。

企業理念の実現 ～バングラデシュにおける取組み

ユーグレナGENKIプログラムの進捗と事業化に向けた取り組み

今年度は約5,000人の子供達へのクッキー配布を計画。また、現地でのクッキー事業準備調査がJICAの「BOPビジネス連携促進」に採択



実施概要

配布物:	ミドリムシ入りクッキー (1食分=6枚入り1袋、約230kcal/約50g)
実施期間:	2014年4月より、休日を除く週6日 (1日1食、期限無し)
実施場所:	ダッカ(バングラデシュの首都)のNGOが運営する小学校 ➢ 2014年度実績: 11校 ➢ 2015年5月時点: 19校
対象者/ 配布数:	上記小学校に通う児童 ➢ 2014年度実績: 約2,500人/日 ➢ 2015年5月時点: 約5,000人/日
仕組み:	当社及び協賛企業対象商品1個につき 10円を寄付
専用HP:	http://www.euglena.jp/genki_program/



2014年第一回協力準備調査
(BOPビジネス連携促進)

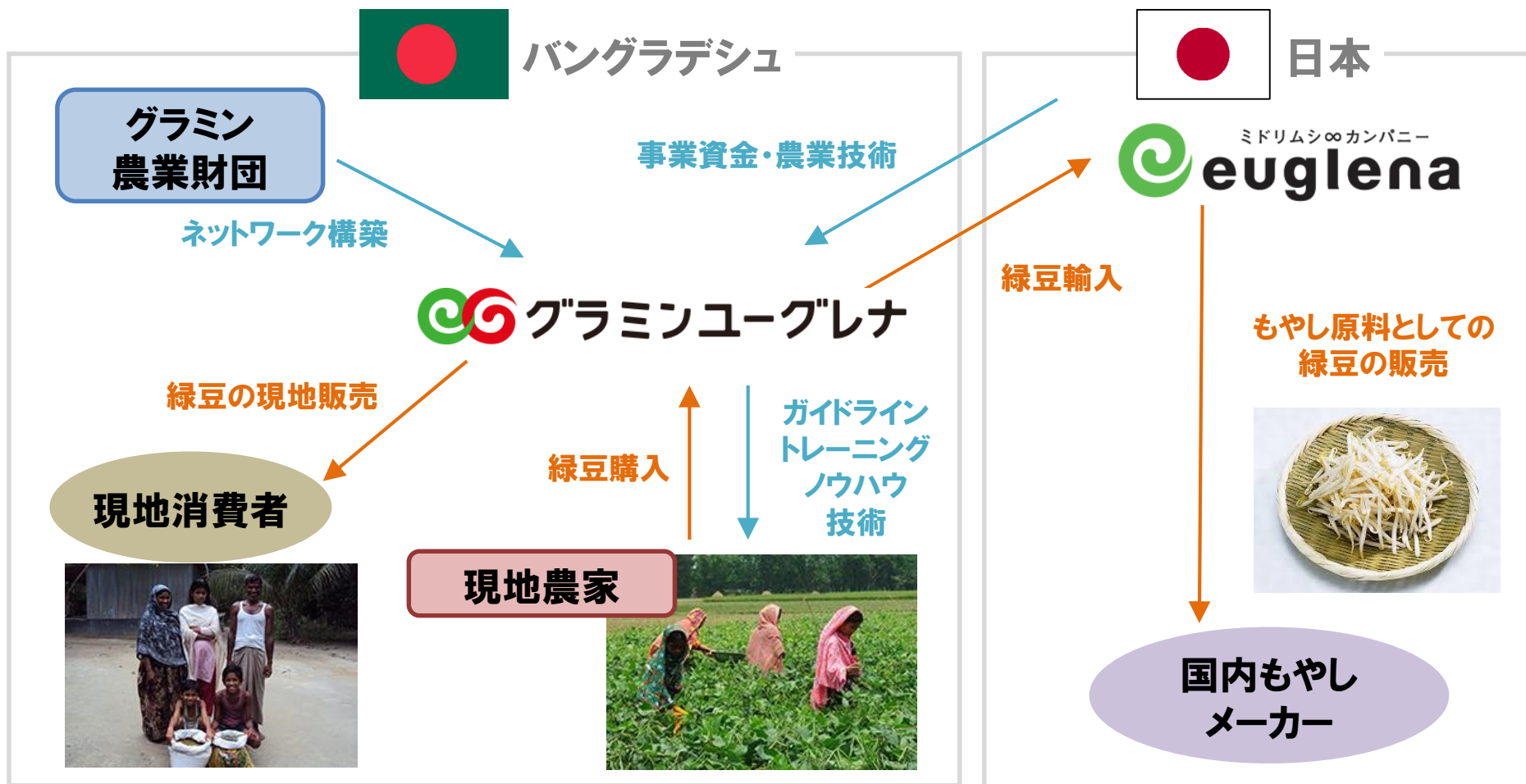
実施概要

事業名:	ユーグレナ・クッキー事業準備調査
実施地:	バングラデシュ人民共和国
テーマ:	貧困層層(BOP)・中所得層(MOP)を対象としたユーグレナ・クッキー等のユーグレナ入り食品の商業化の可能性の調査
調査内容:	・クッキー市場規模と将来性の調査 ・BOP、MOP層の各層ニーズ調査 ・商品開発と販売テスト
実施期間:	2015年4月から 2017年3月までの2年間



Bangladeshにおける緑豆プロジェクト

Bangladeshの農民が育てる緑豆の生産性を日本の技術で安定的に向上させ、同国内で販売するだけでなく、日本にも供給



注: 「グラミンユーグレナ」は Bangladesh人初のノーベル平和賞に輝いたムハマド・ユヌス博士率いるグラミンググループと、「人と地球を健康にする」ことを理念に持つユーグレナ社の合併企業「ユーグレナGG」の通称です。

【ご参考】

株式会社ユーグレナの会社紹介

会社概要

設立	2005年8月9日	
本店	東京都港区芝5-33-1	
資本金	48億1,069万円	2015年3月末
売上高	30億4,634万円	2014年9月期
従業員数	単体 80名 / 連結 130名	2015年3月末
経営理念	人と地球を健康にする	
経営 ビジョン	バイオテクノロジーで、昨日の不可能を今日可能にする	
上場市場	東京証券取引所市場第一部	
証券コード	2931	
単元株	100株	

ベンチャー企業としての高い評価

2015年1月、経済産業省「第1回日本ベンチャー大賞」
にて最優秀賞である「内閣総理大臣賞
(日本ベンチャー大賞)」を受賞



2015年2月
「Financial Times ArcelorMittal
Boldness in Business wards」の
『Smaller Company』部門にノミネート



ユーグレナ研究のきっかけ

Q: 私たちは、何故ユーグレナの研究、事業化を目指したのか。



**A: 社長である出雲が大学時代に行った Bangladesh にて
栄養失調の問題を目の当たりにし、それを解決するために
栄養豊富な食料を作ろうと考えたため。**

微細藻ユーグレナとは

属名: Euglena(ユーグレナ)
和名: ミドリムシ

5億年以上前に、原始の地球で誕生した生物の1つ

体長約30 μm から50 μm 、幅約10 μm で、鞭毛を持ち動き回ることができる

水中の有機物、無機物を体内に取り込む特徴を持つ

植物性栄養素と動物性栄養素の両方を含む59種類の栄養素を持つ

強い二酸化炭素耐性を持つ

細胞壁がない

体内に油脂を生成する

ユーグレナの独自成分
パラミロンを持つ

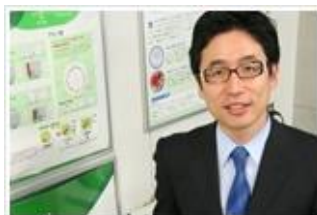


世界初、ユーグレナの大量培養技術の確立

2005年12月に世界で初めて、東京大学を中心とした藻類研究を実施する大学と連携し、ユーグレナの大量培養の技術の確立に成功



研究開発 @ 東京大学



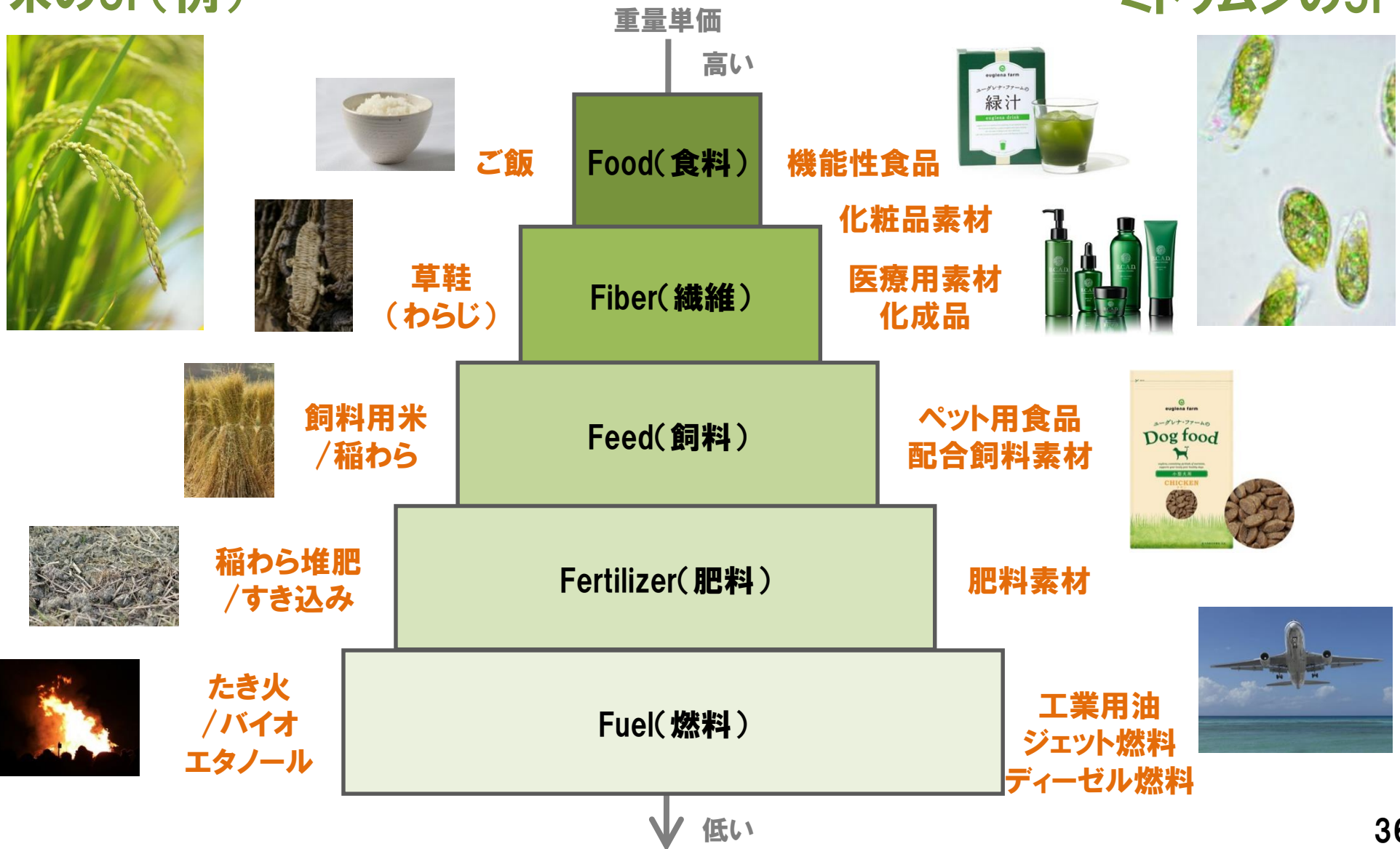
東京大学農学部
創業メンバー



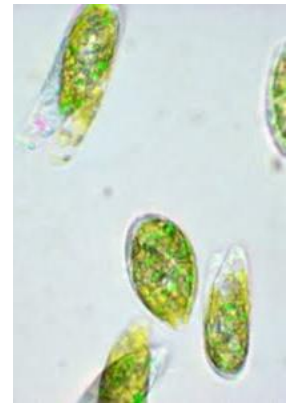
2005年当時の設備(現在は違う設備)
実証 @ 沖縄県石垣島

基本戦略ーバイオマスの5F

米の5F(例)

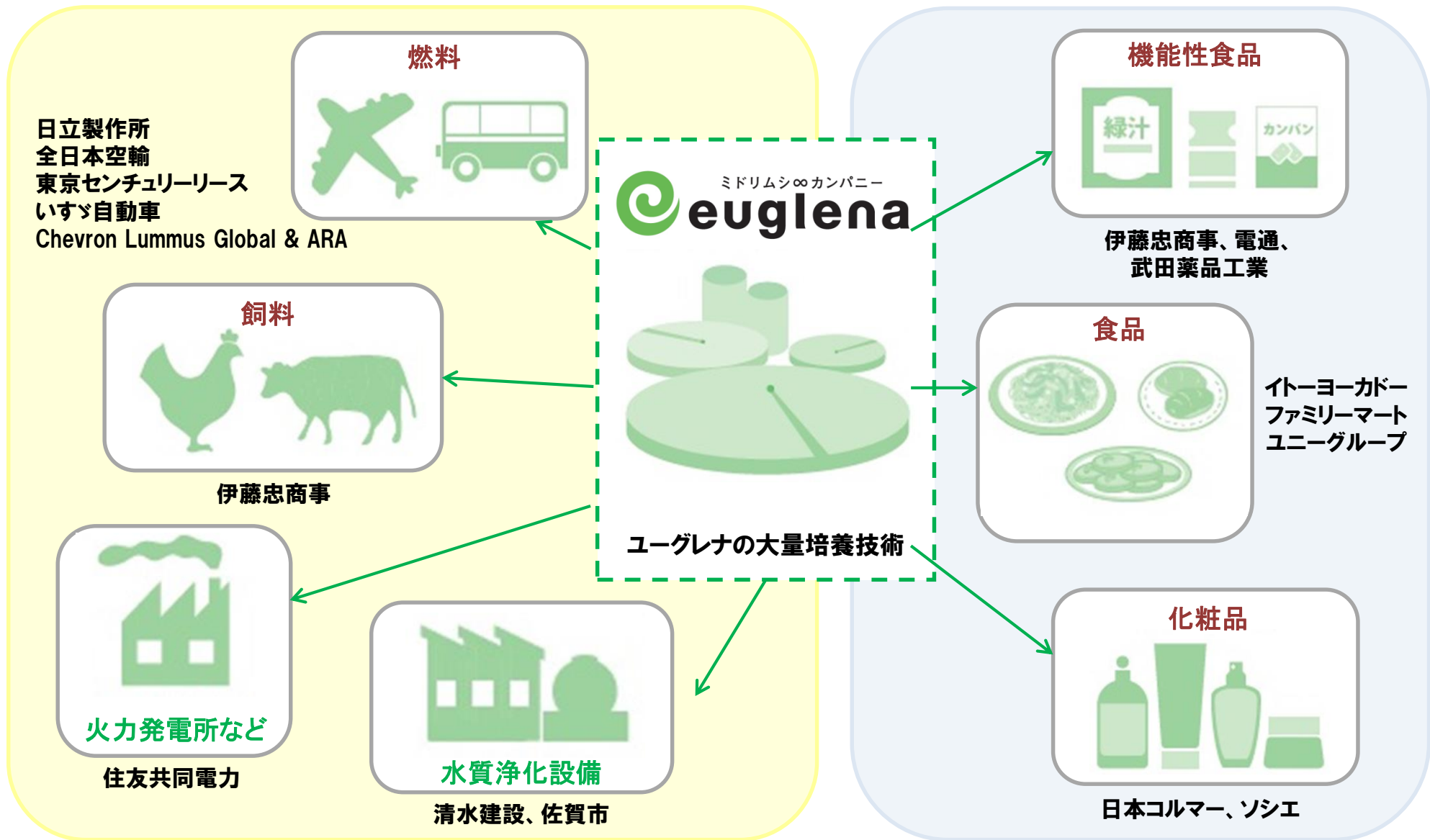


ミドリムシの5F



エネルギー・環境事業

ヘルスケア事業



注：掲載企業は各事業におけるパートナー／資本提携先です。

事業・研究開発のパートナー

提携企業 (ヘルスケア事業)



**伊藤忠商事
株式会社**
(8001.T)



株式会社電通
(4324.T)



**株式会社
ファミリーマート**
(8208.T)



**株式会社セブン&
アイ・ホールディングス**
(3382.T)



**武田薬品工業
株式会社**
(4502.T)

提携企業 (エネルギー・環境事業)



**Chevron Lummus
Global & ARA**



**株式会社
日立製作所**
(6501.T)



**ANAホールディング
ス株式会社**
(9202.T)



清水建設株式会社
(1803.T)



**東京センチュリー
リース株式会社**
(8439.T)



**いすゞ自動車
株式会社**
(7202.T)

研究開発パートナー



独立行政法人
新エネルギー・産業技術総合開発機構



独立行政法人
科学技術振興機構
Japan Science and Technology Agency



戦略的イノベーション創造プログラム
Cross-ministerial Strategic Innovation Promotion Program



革新的研究開発推進プログラム



理化学研究所

大学



東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO



慶應義塾



京都大学
KYOTO UNIVERSITY



高知大学
Kochi University



近畿大学
KINKI UNIVERSITY



Public University Corporation of the
UNIVERSITY OF HYOGO



UC San Diego

地方自治体

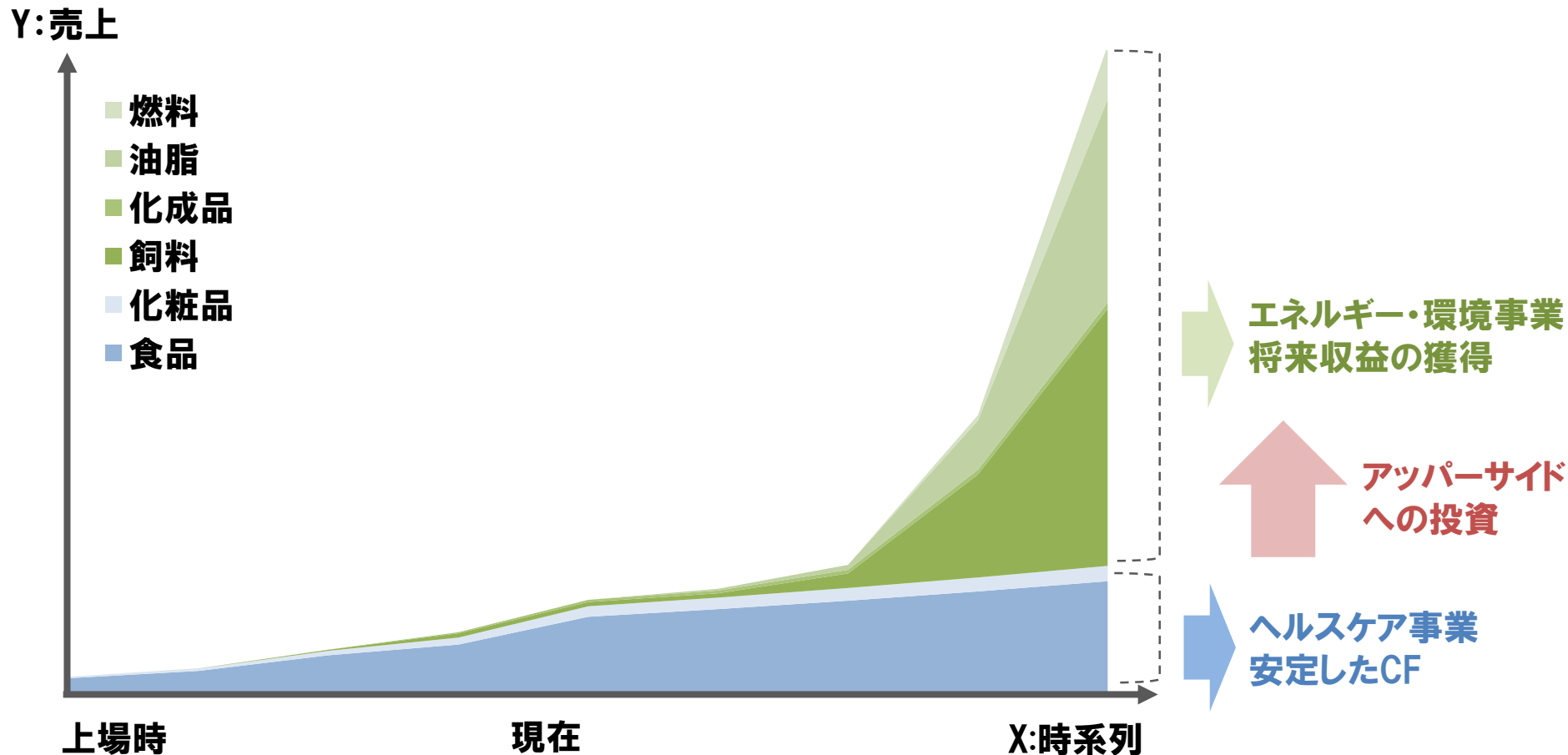


佐賀市
SAGA

赤字は当社株主

成長戦略－安定したCF(キャッシュフロー)とアッパーサイドへの投資

ヘルスケア事業の一層の成長によって、安定的なキャッシュフローを創出し、将来収益性の高いエネルギー・環境事業に対して投資します。エネルギー・環境事業においてはコスト低減によって新たに創出される市場収益から得られる収益を積分し、将来価値を高める研究を推進します。

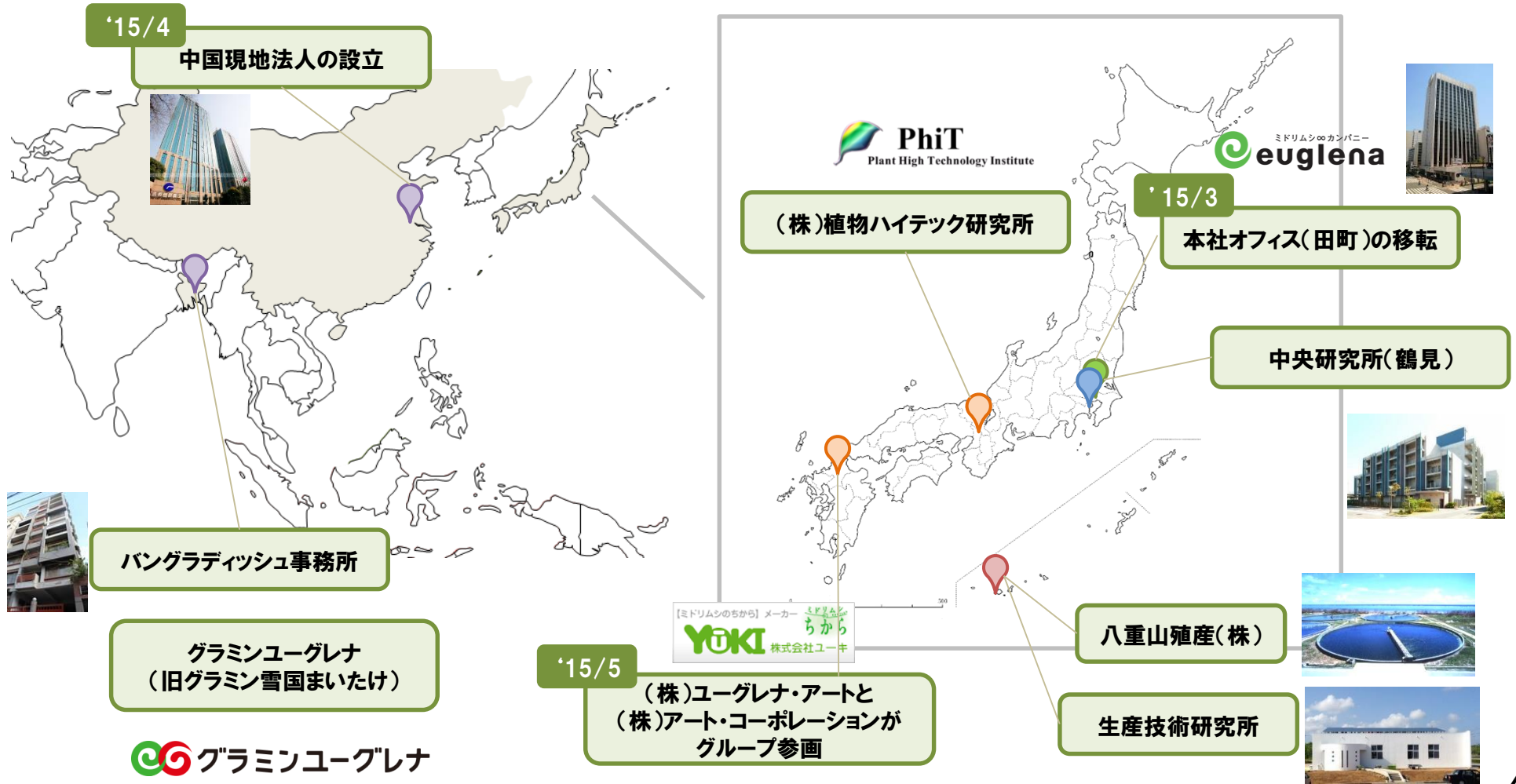


注: 上記グラフはイメージであり、実際の売上推移を必ずしも示すものではありません

グループの拡大と販売体制の更なる強化

2015年4月、中国現地法人が現地当局より営業許可証を取得

2015年5月、当社OEM取引先がグループ参画



ユーグレナ食品の強み－栄養素

○59種類の栄養成分

《ビタミン》

α-カロテン
β-カロテン
ビタミンB1
ビタミンB2
ビタミンB6
ビタミンB12
ビタミンC
ビタミンD
ビタミンE
ビタミンK1
葉酸
ナイアシン
パントテン酸
ビオチン

《ミネラル》

亜鉛
リン
カルシウム
マグネシウム
ナトリウム
カリウム
鉄
マンガン
銅

《アミノ酸》

バリン
ロイシン
イソロイシン
アラニン
アルギニン
リジン
アスパラギン酸
グルタミン酸
プロリン
スレオニン
メチオニン
フェニルアラニン
ヒスチジン

チロシン
トリプトファン
グリシン
セリン
シスチン

《その他》

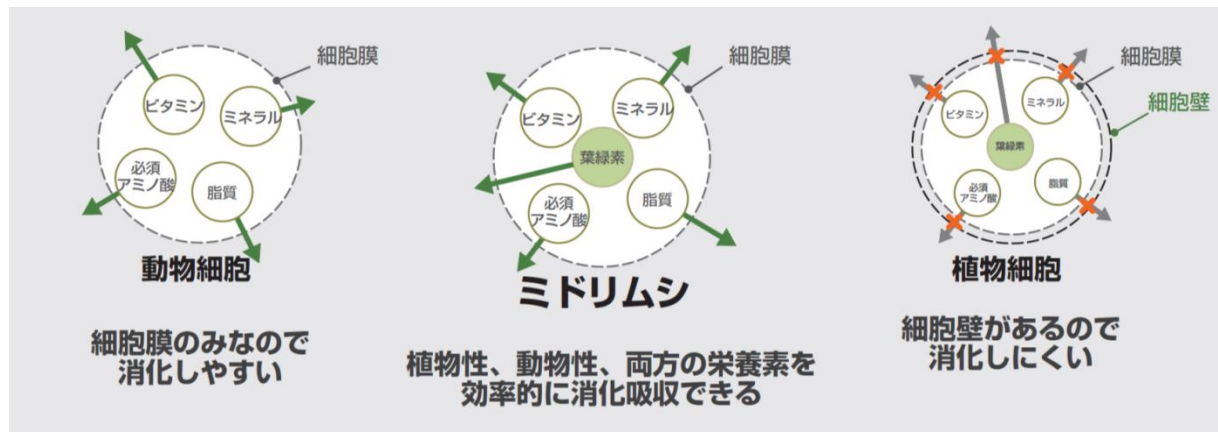
β-グルカン
(パラミロン)
クロロフィル
ルテイン
ゼアキサンチン
GABA
スペルミジン
プトレッシン

《不飽和脂肪酸》

DHA
EPA
パルミトレイン酸
オレイン酸
リノール酸
リノレン酸
エイコサジエン酸
ジホモγ-リノレン酸
アラキドン酸
ドコサテトラエン酸
ドコサペンタエン酸

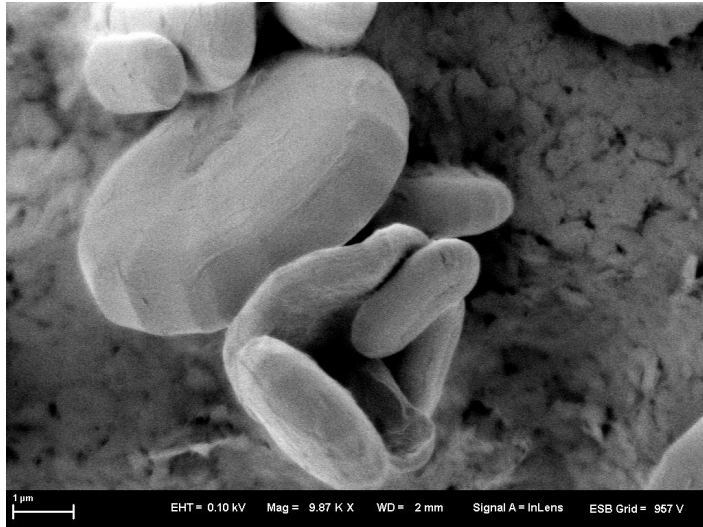
分析元：財団法人 日本食品分析センター

○栄養成分の吸収性

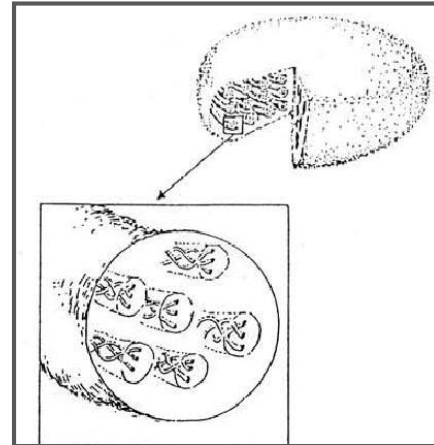


ユーグレナ食品の強みーパラミロン

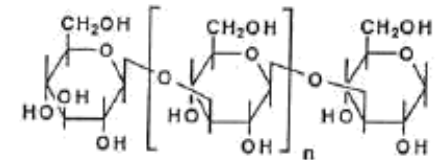
パラミロンはミドリムシしか持っていない食物繊維の一種です。吸油性に優れており難消化性であるため、吸収されずそのまま外へ排出されます。パラミロンがもつ効能もユーグレナの食品としての特徴です。



撮影: 青山学院大学 福岡伸一教授

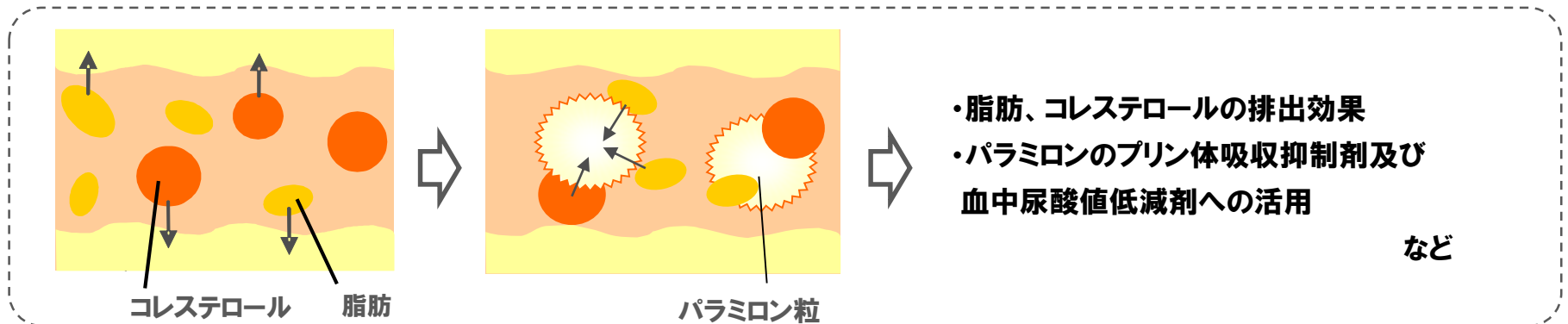


▲パラミロンの粒子構造
(Marchessault and Deslandes, 1979 より引用)



β-1,3- グルカン

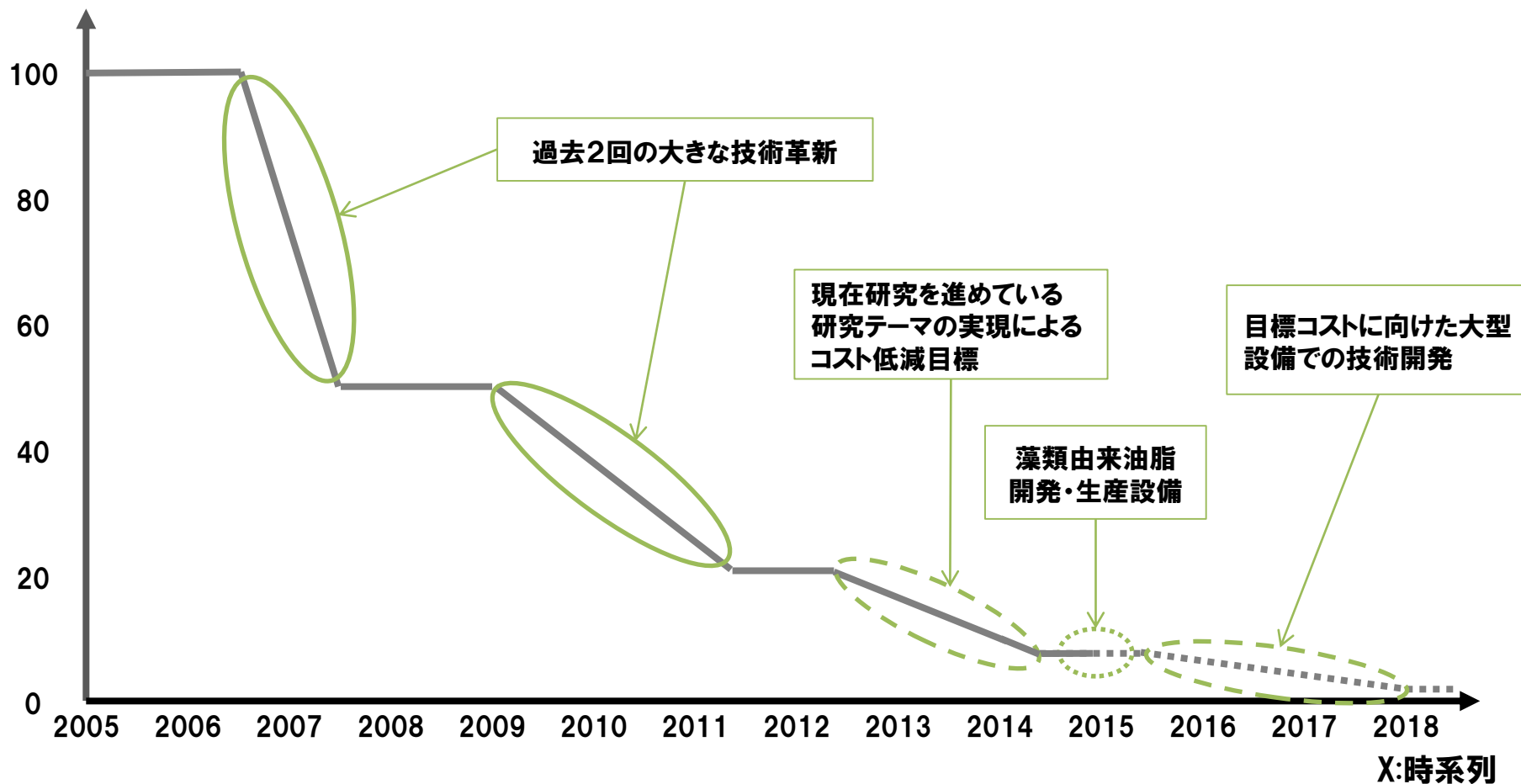
▲パラミロンの構造



2018年迄の技術開発ロードマップーユーグレナ生産コスト低減

公募増資の調達資金を藻類由来油脂開発・生産設備に投資する事で、バイオ燃料水準の低コスト生産技術の確立を目指す

Y:コスト(重量単価)

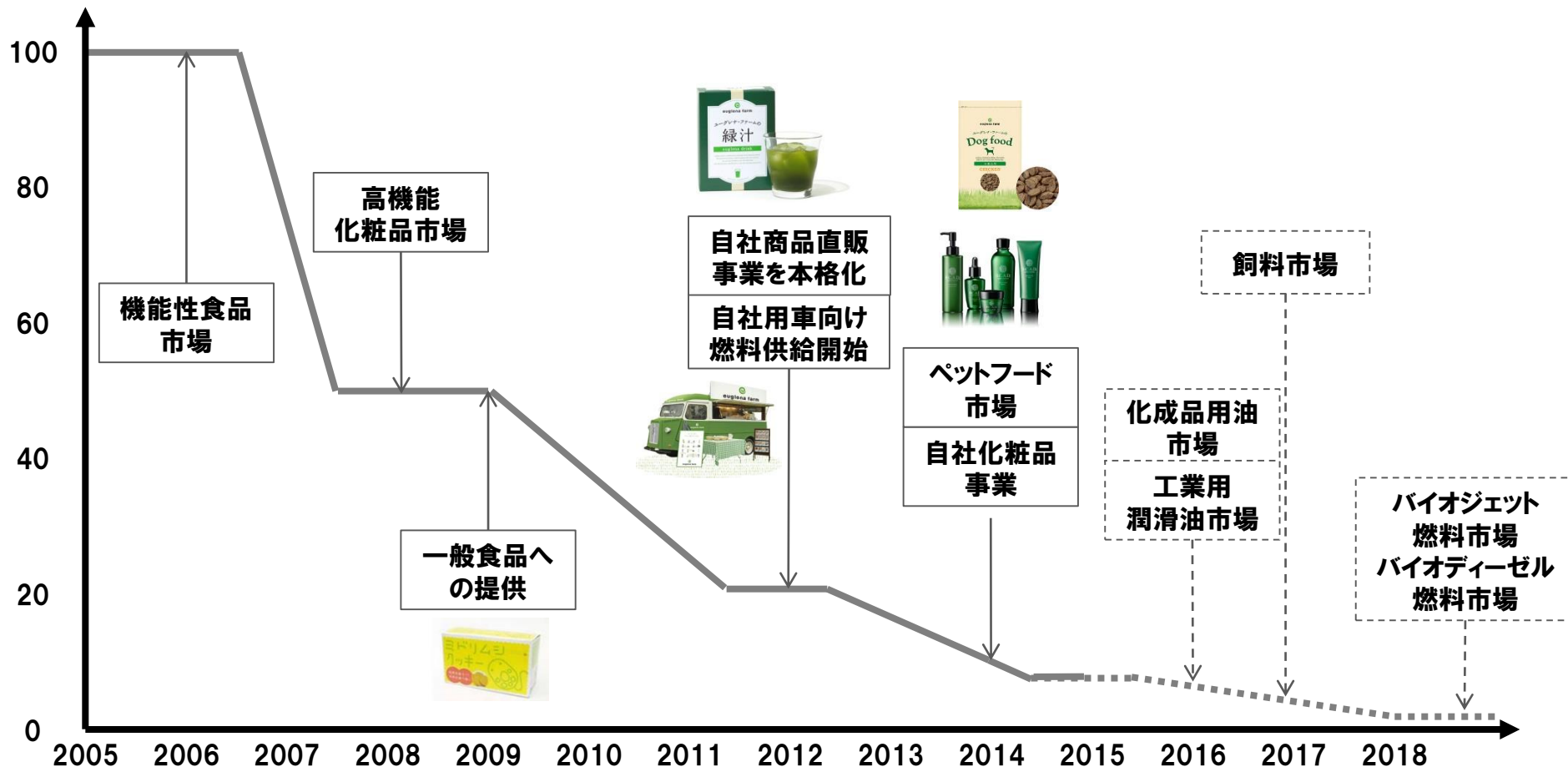


注:コストは2005年、世界初の大量培養成功当時を100としています。

2018年迄の技術開発ロードマップー研究開発により目指す新規市場

技術開発設備による低コスト化と抽出・精製プロセスの獲得に従い、5Fに従ったユーグレナ市場の拡大を目指す

Y:コスト(重量単価)



注:コストは2005年、世界初の大量培養成功当時を100としています。

X:時系列

44

バイオテクノロジーで昨日の不可能を今日可能にする。

